

農福連携支援研修の概要

1 ねらい

福祉事業所職員が福祉関係施設の栽培ほ場で運営するのに必要な基礎知識及び技術を修得することを目的とし、そのために必要な研修を行う。また、農家への施設外就労に向けて、農作業を行う作業者へ的確に伝えられる手法を身につけるよう、農業の実際と指導方法について理解を深める。

2 研修内容

(1) 研修期間

令和2年6月22日(月)から令和2年12月7日(月)までの16日間

(2) 実習・講義内容

月 日	実習内容	講義内容
6/22(月)	開講式	
6/23(月)	追肥、土寄せ、防除、除草、防草シート	野菜づくりの基礎(春夏作1)
6/24(水)	支柱立、収穫、防除、誘引、追肥、整枝、摘葉	野菜の病気と防除
6/30(火)	支柱立、収穫、防除、誘引、追肥、整枝、摘葉	野菜づくりの基礎(春夏作2)
7/8(水)	孫づる整理、防除、玉直し、追肥土寄、土作り	野菜の害虫と防除
7/15(水)	除草、摘房、収穫、整枝、摘葉、防除、追肥	作付計画の実際
7/27(月)	収穫、整枝、摘葉、追肥等	施肥と施肥効果
7/28(火)	収穫、整枝、摘葉	野菜づくりの基礎(秋作1)
8/4(火)	秋冬基肥、畝立、は種、春夏収穫、摘心、整枝	野菜づくりの基礎(秋作2)
8/26(水)	基肥、畝立て、は種、春夏収穫、摘心、整枝、摘葉	土壌と土づくり
9/2(水)	基肥、畝立、定植、防除、収穫、摘心、整枝	雑草防除
9/16(水)	間引き、追肥、土寄せ、は種、収穫、摘心、整枝	農業機械と農作業の安全
10/5(月)	間引き、追肥、土寄せ、テグス張り、収穫、整枝	アグリジョブコーチ概論
10/14(水)	追肥、土寄せ、間引、除草、芽欠き、土寄、追肥	わかりやすく教える技術
11月25/27	収穫、調整 25日か27日のどちらか	
12/7(月)	閉校式	

ア 実習、講義は参加自由で実習はビデオ、講義は資料のアフターフォローがある。

イ 6月22日(月)開講式後のオリエンテーションで年間計画を説明する。

(3) 研修時間

共同実習：午前9時から正午まで(途中適宜休憩)

午後1時から午後4時まで(途中適宜休憩)

講義演習（農業分野）：午後1時から午後4時10分（途中適宜休憩）

（福祉分野）：午後1時～午後2時30分

(4) 実習・講義の出欠席について

- ア あらかじめ出席できない日が明確な場合は、開講日6/22（月）に配布する年間計画表に記載し、提出する。
- イ 出席予定が都合により欠席となる場合は、すみやかに農業大学校に連絡する。

(5) 共同実習のすすめ方

- ア 実習は参加自由であるが、資料は全員に配付する。受講しない作業もビデオで内容を確認することができる。
- イ 参加者7～8名で班をつくり、班ごとに共同で実習を行い、日ごとに班長を決める。少人数の場合は1班のみとする。
- ウ 実習は、班ごとに異なる作業を行う。作業内容は、途中で交代する。
- エ 栽培品目は、露地野菜（ナス、キュウリ、ピーマン、スイカ等の夏野菜と、キャベツ、ブロッコリー、ハクサイ、ダイコン等の秋冬野菜）とする。
- オ 栽培方法は慣行栽培とし、この研修では有機農法など特殊栽培については実習しない。
- カ 当月に翌月の実習予定をお知らせする。研修生は、実習前に内容を確認し、実習を行う。
- キ 原則として、実習に使用する道具、資材等は農業大学校で準備する。ただし、個人で使用するものは、各自で準備する（例：長靴、手袋、カップ、帽子等）。

(6) 講義

原則として午後、中央教育棟2階の第3研修室で行なう。欠席者には講義資料を後日配布し、ビデオで内容を確認することができる。

(6) 農福連携事例視察研修

農福連携に取り組んでいる農家の圃場や直売所などの見学を、バスを借り上げ年2回実施する。研修16日間とは別であり、参加は自由である。

(7) 実習記録簿

その日の実習終了後に、班ごとに実習内容を実習記録簿に記録す。実習記録簿は、その日の班長が、実習講師に提出する。

3 経費

- (1) 教材費等の費用はかからない。
- (2) 視察研修会の際、視察料が必要となる。